

第5回 緑化フェア幹事会 議事録

詳細摘録

令和5（2023）年12月8日

■次第と記録記載ページ

- 1 開 会
- 2 全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画 策定以降の進捗状況について
【資料1～3】
- 3 今後のスケジュール【資料4】
- 4 市制100周年記念事業について【参考資料1】
- 5 その他
- 6 閉 会

■日時と場所

日時：令和5年12月8日（金）9:00～11:00

場所：川崎市役所本庁舎2階ホール

■出席者

幹事（出席10名）			
	分野	氏名（敬称略）	所属
1	学識	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 准教授
2	協働推進	栗原 国男	公益財団法人川崎市公園緑地協会嘱託 東京農業大学地域環境科学部地域創成学科 非常勤講師
3	出展展示	深町 貴子	園芸家：多摩区在住
4	交通対策	米川 僚一	一般社団法人 川崎市交通安全協会 専務理事
5	会場運営	渡辺 広之	京都芸術大学芸術教養センター 客員教授
6	行催事	反町 充宏	一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長
7	広報・PR	大西 絵満	かわさき市民放送株式会社 代表取締役
8	植物調達	矢澤 和洋	セラサ川崎農業協同組合 営農経済本部 組織部 組織支援課 課長代理
9	植物管理	今井 伸之	川崎市造園建設業協同組合 副理事長
10	飲食・物販	萩原 ひとみ	一般社団法人 川崎市観光協会 理事

事務局（小池局長、木村次長、小酒井部長、岸課長、石垣課長、矢口課長、藤井課長 他）

■配布資料

資料	1	論点メモ
資料	2	報告事項
資料	3	質問対応表
資料	4	今後のスケジュール
参考資料	1	第6回市制100周年幹事会資料

■会議録

1. 開会（次第1）

事務局（木村次長）

定刻でございますのでただいまから第5回緑化フェア幹事会を開催させていただきます。本日は大変お忙しい中、当幹事会にお集まりいただきましてありがとうございます。進行を務めさせていただきます。川崎市市政100周年記念事業全国都市緑化川崎フェア実行委員会事務局次長の木村でございます。どうぞよろしくお願いたします。まず議事に先立ちまして本日の幹事会は公開とさせていただきます。また本日の会議録に個々の発言者氏名を記載することを予めご了承ください。本日今のところ傍聴者はございませんが、随時申し出等がございましたらご案内させていただきます。

また事務局の緑化フェア推進室でございますが、10月に若干ラインが増え職員数が増えてございますことをご紹介させていただきます。引き続きよろしくお願いたします。

なお、本日は事務局であります緑化フェア推進室、シティプロモーション推進室市制100周年記念事業推進担当、その他建設緑政局緑政部職員等の本市職員が出席しておりますとともに、記録作業等のため委託事業者も同席しておりますことを御了承ください。

それでは会議に先立ちまして、資料の確認を致します。当幹事会からペーパーレスによる会議とさせていただきますので、お手元に配置しましたタブレットで資料をご確認いただきます。

尚、「資料2-0」につきましては取扱注意となりますので予めご承知おきください。

また、補足資料として、机上に、座席表、協賛金のセールスシートをお配りしております。

資料が開けない、不備などがございましたら、会議の途中でも構いませんので、事務局までお申出くださいますようお願い申し上げます。

それでは、これからの進行は福岡幹事長にお願いいたします。

福岡幹事長

皆様おはようございます。それでは、ここから、私が進行を務めさせていただきます。

次第2～4について一括して事務局より説明をお願いします。まずは、次第2「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画策定以降の進捗状況」についてお願いいたします。

2. 「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画策定以降の進捗状況について」について (資料 1～3)

事務局（岸課長）

皆様おはようございます。緑化フェア推進室の岸と申します。よろしくお願い致します。

お手元の端末の「資料 1」をお開きください。こちらの「論点メモ」につきましては、黒字の部分が前回 8 月 7 日のものでございまして、今回は赤字の部分、次回の予定が青字の部分という形になっております。詳細につきましては後ほど別のファイルにてご説明いたしますが、概要を少し何点かピックアップしてお話させていただきますと、まずこのページの協働推進につきましては、植物育成に関するボランティアの募集について、その活動内容や時期、具体的な場所などの報告を予定しております。続きまして、ページを 1 枚めくっていただき、上段の会場につきましては、コア会場とエリアの具体的な取組について、ガーデンやコンテンツの組合せなどを報告する予定となっております。また、行催事につきましては、公式の行事につきましては、全体コンセプトですとか、各コア会場でのセレモニーなどの考え方についてご報告を予定しております。

詳細についてご説明させていただきますので、「資料 2-0」というファイルをお開きいただければと思います。こちらは主に本年 8 月以降の具体的な会場整備の内容ですとか、行催事などにつきましてご報告させていただくものでございます。

資料の枚数が非常に多いことから本日は少しポイントとなる部分を抜粋してご説明させていただきます。と思っております。

それでは、ページをめくっていただき右肩、「ページ番号 1」をご覧ください。

まず初めに協働の取組につきましては、市内の市立小学校・中学校・特別支援学校、全 170 校に加えまして、地域周辺企業・保育園と連携し、花苗などをツールに次の世代につながる各種取組を実施するなど、みどりを知り、触れて、関わるきっかけを展開してまいりたいと考えております。

次に「2 ページ」をご覧ください。こちらは連携した取組のうち臨海部キングスカイフロントについてのものございまして、公共空間と民間開発区域が一体となったシームレスで質の高いみどり空間を創出するとともに、立地企業等の協働による持続可能な花壇づくりを進めることで、将来的に市域における官民融合の新しい“みどりの核”を目指す取組を進めている場所でございます。フェア開催時には、エリア内にホテル等もございましてことから、インバウンド観光客や滞在者にフェアを知っていただいて、来場したくなるようなおもてなしの仕掛けを展開してまいりたいと考えております。

次に「4 ページ」をご覧ください。観客誘致・広報宣伝につきましては、通年の取組として、多くの人がつながり、関係人口が増えるような SNS の発信、ノベルティの活用を各区のイベントブースで出展をしています。

次に「5 ページ」をご覧ください。広報の集中期間につきましては、フェア会期の 2 か月

程度前から少し印象を変えて、インパクトを与え、フェアのもてなし感を醸成するために、乗降客数が多くてリーチ率が高い、川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅などを対象にラッピング等を展開してまいりたいと考えております。また、会場のパンフレットにつきましては、会場での感動や思い出を書き留められるオリジナルのパンフレットの作成を検討しているところでございます。

次に「6 ページ」をご覧ください。こちらから会場の計画になります。富士見公園につきましては、まずは左側にありますとおり、エントランス広場に「これまでの川崎」「これからの川崎」などをテーマに市民協働で「お出迎えとおもてなしの花壇づくり」を行うことと、富士通スタジアムの外壁などを活用し、都市部における最先端の緑化技術を発信してまいりたいと考えております。

次に「8 ページ」をご覧ください。コンテストエリアといたしまして、東側に臨むプロムナードにおいて、ハンギングバスケットやコンテナガーデンコンテスト各種作品を展示するとともに、市民・来場者の参加するハンギングバスケットなどの体験講座も同時に実施してまいりたいと考えております。

次に「12 ページ」をご覧ください。メインガーデンの具体的なイメージにつきましては、配管・鉄骨等を使用した躍動的な工場のモチーフが花に包まれていく工業都市としての発展の歴史である「これまでの川崎」、市民参加のガーデンなど多様なコンテンツで花やみどりに包まれる、みどり豊かな環境先進都市としての「これからの川崎」を昼と夜、2つの時間帯で表現していくということになっております。

次に「17 ページ」をご覧ください。等々力緑地につきましては、市民・企業・団体により、五感を刺激する「体感・体験」の場をテーマにメインガーデンを創出するとともに、エントランスにふさわしい花畑のもてなしと、フォトスポット等の仕掛けを実施してまいりたいと考えております。

次に「18 ページ」をご覧ください。パレットを活用した動かせる花壇・ファニチャーを用いた柔軟な空間活用ですとか、企業等からの連携による水素など脱炭素等に配慮した資源循環型の取組をこちらでは展開してまいりたいと考えております。

次に「21 ページ」をご覧ください。生田緑地につきましては、伝統技術・先進技術を用いてタケ材などの既存の資源を最大限に活かした会場づくりを行うところと、日本民家園、青少年科学館、岡本太郎美術館の3館との連携による特色のある展示や市民協働の取組を発信していきたいと考えております。

次に「25 ページ」をご覧ください。周辺エリアの取組につきましては、各コア会場への期待感やおもてなし感を演出するために、多様な主体と連携しオープンスペースや地域資源を活かした緑の効果を感じられる居心地良く歩きたくなるウォークブルな空間づくりを展開してまいりたいと考えております。

次に「28 ページ」をご覧ください。行催事につきましては、かわさきフェアの節目に開催し、ハレの日への期待感を高め、フェアの意義や理念を伝えるとともに、市民総参加でフ

フェアを盛り上げる各種公式行事などを予定しています。具体的には、フェアの始まりを告げるとともに、川崎の魅力や文化を発信するアトラクションやテープカット等を実施する総合のオープニングセレモニーを、秋開催の締めくくりですとか、春開催の節目という形で行うセレモニー、それからフェア期間を振り返り、次期の開催地への引継ぎ等を行う閉会式などがございます。また、各セレモニー会場の設定の考え方につきましては、開会式・閉会式に合わせて総合オープニングとクロージングセレモニーは「富士見公園」、秋の体験と記憶を振り返り、春に花咲く花をイメージするための秋期のクロージングイベントにつきましては「等々力緑地」で、豊富な資源を生かして、春の期待感を高めるための春期オープニングイベントは、それぞれ「生田緑地」の会場で実施を予定する予定でございます。

次に「31・32 ページ」を順番にご覧ください。こちらは、開催期間中における夜の公園の活用をコンセプトとした、2つのコンテンツイメージをご紹介します。1つ目は、「夜の公園×スカイランタン」というのをテーマに、先祖に自分たちの平穏無事を告げ、ご加護を祈ることから始まった台湾の伝統行事でございますが、こちらを安全と環境に配慮したヘリウムガスにLED 使うことで現代風に再現しています。こういったそれぞれの願いを込めた次の100年につながる景色を作り出したいと考えております。

続いて次のページでございますが、2つ目といたしまして、「環境負荷ゼロのマルシェ」をテーマに、植物の力で発電するボタニカルライトですとか、燃料電池車を利用した「オーガニックな飲食」と「空間を彩る音楽」で市民の記憶に残るイベントを開催していきたいなと思っております。

次に「34 ページ」をご覧ください。植物調達につきましては、多様な植物を会期にあわせて計画的に納入し、会場での施工、維持管理を適正に実行する点について、川崎市造園建設業協同組合さんとセレサ川崎農業協同組合さん、川崎市公園緑地協会の3社で構成される「植物調達協議会」というところを10月に設立致しましたので、そちらと合わせて取組を進めているところでございます。

次に「37 ページ」をご覧ください。その他の分野の概要につきましては、「五感で感じる川崎の魅力を発信」をテーマに「かわさきそだち」などを活用した、飲食・物販の提供に加えて、環境都市、先進都市にふさわしい会場運営・管理などを実施してまいります。また、使い捨てのプラスチック等は可能な限り抑制することと、容器のリユース、リサイクル等の環境に配慮した取組を促進するため、資源のリサイクルを推進するエコステーションの設置を考えております。また、交通対策につきましては、公共交通の利用を前提としていますが、等々力と生田緑地につきましては、路線バスの増便等を検討する点と、最寄り駅においてボランティアや警備員を配置して、案内サポートを適切に実施してまいりたいと考えております。

最後に「38 ページ」をご覧ください。各会場における秋と春の想定した乗車数を示させていただいているところでございます。

こちら資料の説明は以上でございます。

続きまして、報告事項「資料2-1」をご覧ください。「R5年度のプレ栽培の取組経過」について、秋と春の開催に向けて、「たねダンゴ」や「プラグ苗」の栽培を小中学校、特別支援学校、保育園なども含めて、約2,530人の方に参加していただき、5,400以上の花苗を作成したところでございます。今後も取組を進めていきたいと考えております。

次に「資料2-2」をご覧ください。協働の花苗サポートや会場の除草など、フェアの開催前と開催中に一緒に緑を育て、守る活動をしていただけるボランティアを、翌年1月9日まで募集をしているところでございます。

次に「資料2-3」をご覧ください。「全国都市緑化かわさきフェア」まで残り1年になりまして、気運醸成や市民総参加に向けた意識の向上につなげるため、市内の各所で様々なPR活動をスタートさせているところでございます。次のページに広報活動の具体的な事例を掲載しております。

次に「資料2-4」をご覧ください。本年度6月～10月までのSNS運用レポートにつきまして、カウント立ち上げ時からフォロワー数の推移や反応の良かった投稿などを分析しておりますが、時間の都合上、資料がかなり多いこともありますので詳細説明は割愛させていただければと思っております。後ほどご確認いただければと思います。また、こちらの分析結果につきましては、今後、閲覧数やフォロワー数の増加に向けて活用していきたいと考えております。

次に「資料2-5」につきましては後ほど次第4でご説明させていただきます。

「資料2-6 企業出展 庭園出展要項」の方をご覧ください。こちらは、秋の開催時に富士見公園に出展する「垂直花壇」「みどりのワークスペース」「みどのベランダ」の3つのタイプの庭園出展を現在募集中でございます。資料の事例は仙台等の写真等を載せておりますが、タイプを分けて出展花壇を出展予定です。

次に「資料2-7」をご覧ください。全国都市緑化かわさきフェア1年前イベントということで市役所の本庁舎においてNHKの横浜放送局さんと川崎市の共催という形で「趣味の園芸フェア in かわさき」の番組公開収録や実行委員会主催によるトークイベントを開催させていただいたところでございます。当日は著名な方々に身近な花や野菜をテーマにお話ししていただくなど、イベント自体大盛況の元に終えることができました。この場でお礼を申し上げたいと思います。また来年に向けても良い弾みになったというふうに考えております。

続きまして「資料3」の方をご覧ください。こちらの質問対応表につきましては前回の幹事会でいただいたご意見につきまして現時点での事務局の考え方ですとか対応をお示したものでございます。こちらにつきましても、少しボリュームございますことから何点か抜粋してご紹介させていただければと思います。はじめに、協働推進の下から2つ目の深町幹事からいただいた自分が参加していることを表明する方法等につきましては、花壇等で使えるプレート等を作成し、地域で活動している団体などに配布開始したところでございまして、今後も個人や企業、商店街など、各参加者や状況に応じて取り入れやすい方法の提

案、実施していただいた取組の発信の仕組みを引き続き検討させていただければと考えております。

次に 2 ページをご覧ください。会場計画につきましては上から 3 つ目の福岡幹事長にいただいた各会場が持っている課題、周辺のまちが持っている課題を次につなげていく仕組みというところにつきましては、右側に事例という形で少し載せておりますが、例えば生田緑地でナラ枯れなど、里山管理が直面する課題など、各会場やエリアの特徴等、特性のようなものを踏まえてフェア後のレガシーにつながる取組を引き続き個別に検討中でございます。

次に 3 ページをご覧ください。下段の広報宣伝の上から 3 つ目の大西幹事からいただいたフェアの PR 戦略というところにつきましては、100 周年の事業と一体的に、「通年」と「広報集中期間」とメリハリをつけた効果的な広報宣伝 P R の実施に加え、広報計画カレンダーの作成を今後予定しているところでございます。

次に 4 ページをご覧ください。飲食物販のうち矢澤幹事からいただいたシーズンの梨の活用というところにつきましては川崎産の農産物等を使用したメニューや、食文化の発信つながるご当地グルメを来場者に PR させていただきたいと考えております。フェア会期中の旬の食材の活用については引き続き検討していきます。

資料 3 までの説明については以上でございます。

3. 今後のスケジュール（資料4）

事務局（岸課長）

引き続き「資料4」今後のスケジュールにつきましてご説明させていただきます。特に今年度の取組というところに着目してご説明させていただきます。はじめに上段から協働推進の取組につきましては、春先に向けたプレ栽培は先ほどもご紹介させていただきました、ボランティアの登録説明会の開催を予定しております。次に広報の宣伝につきましては、カウントダウンや協働の取組、今度はカウントアップを意識した多様な媒体を活用したPR活動を現在進捗しているところでございます。また会場につきましては、いよいよ1年前になりますので、開催に向けた設計と発注を今年度末までに進めていきたいというところでございます。次に植物調達については植物の品目や調達量などを検討しているところでございます。併せて行催事についてはプレイベントとしてカウントダウンイベントのようなものを実施させていただきたいと考えています。最後に飲食物販でございますが、出展者の公募に向けたレギュレーションの整理などを年末までに実施する予定でございます。こちらの進捗につきましても今年度末に開催予定の次回の幹事会の中でご報告できればと考えております。資料の説明は以上でございます。

福岡幹事長

ご説明ありがとうございました。それでは幹事の皆様から御意見等をいただきたいと思っております。御意見等がある方は挙手をお願いします。それから、本日の論点について、必ずしもこれに沿ったご質問やコメントでなくても構わないのですが、票の真ん中の赤いところが川崎市さんとして意見を欲しいというところかと思っておりますので、こちらも見ただければと思います。ご意見等ございましたら挙手をお願いいたします。

はい、それでは矢澤幹事をお願いします。

矢澤幹事

セレサ川崎の矢澤です。おはようございます。「資料2-6」の庭園出展要領の内容ですが、先日推進室の方からこの資料いただきまして、現状出展の関係で、垂直花壇、みどりのワークスペース、みどりのベランダこの内容の3つで、もう定員に達したなどの情報があれば教えていただきたいなと思っております。お声掛けするのにあたって声をかけたけどもう一杯ですとなると私の立場としてもちょっと組合さんに失礼になってしまいますのでお願いいたします。

事務局（藤井課長）

ご質問ありがとうございます。定員は特に設けていないのですが、状況としては全体で35～40弱ぐらい申し込みをいただいております。基本的には応募いただいた方のスペースは

確保したいと思っています。12月15日まで募集を行っておりますので、引き続き応募していただいた方には出展いただくよう調整を進めております。ご参考に、3タイプで一番人気なのがワークスペースタイプです。逆に少ないのがみどりのベランダになっております。ただ、それぞれ一定数を頂いているので引き続きお声がけをいただければありがたいと思っております。よろしく申し上げます。

矢澤幹事

ありがとうございます。あと日頃から緑化フェアの関係で植物調達管理業務にあたる中で感じたところがこのところ多いのでこの場をお借りして、確認事項と要望お伝えさせていただきたいと思っております。当初から川崎市緑化フェアの植物調達において示されている内容であれば、市内で生産されている植物を積極的に活用することと市内調達が優先順位であると認識しております。市内花卉の調達に向けて、市内の花卉生産者に対して説明やヒアリングを現在実施していますが、品目によっては生産可能な花であっても川崎フェアでは取り扱いが難しいといった話もあります。デザインが正式に決まっていない状況でありますので、判断が難しいというのは充分私も認識していますが、市内で生産されている花材、準備が可能と報告している花材、こちらにつきましては、ぜひとも会場装飾に活用させていただきたいと思っておりますので、再度早急に検討いただき報告をいただきたいと思っております。また納品を予定している市内産花卉については、市場出荷の規格で納品をするのか、納品する花の状態は1輪でも咲いていけば良いのか、または6輪ほど多くの花が立ち上がった状態の花でなければ納品対象と見なされないのか、この件については納品する数量に大きな影響を与えますので早急に回答いただきたいと思っております。

また、現在市内産花卉を調達するにあたりまして来年のフェア期間中に納品予定の花材の品種について生産者へ聞き取りをしております。その中で生産者からは、まずは川崎市がデザインを早急に決めていただきまして、そのデザインに沿った希望品種を生産者に対して作付け依頼をしてもらった方が現実的には助かりますという声も頂いております。現在予定しているすべての生産者の意見ではないのですが、特に多く何万ポットと万単位で予定している生産者は特にこのような内容をおっしゃっております。つきましては、川崎市がどのような考えを持っているのか確認させてください。川崎市で希望品種を決めて生産者に対して栽培依頼をかけ対応可能な花材のみの納品とするのか、または川崎市が当初より言っておりました川崎市内産の花を第一優先とするという考えから市内生産者が栽培し提供する花材は品種や色などの制限は一切せずに全て納品させていただけるのか、こちらについても早急に知りたい状況になっております。価格面についても現在納品を予定しているリストに入っている市内産の花がいくらぐらいで買い取っていただけるのか、こちらやはり生産者目線になりますと、いくらで買い取ってくれるのかというのが、緑化フェアに納品、協力する判断基準として重要になってきますので、こちらについてもどのような形で今後進めていくのか分かり次第ご連絡をお願いいたします。私も今日出席していただいて

いる今井幹事もですが、植物調達協議会に入っておりますので協議会に一任するという考えであれば協議会ですぐに決めたいと思っておりますし、そうではない場合は価格が決まる時期を明確にいただかないともう遅い時期に入ってきていますので、その辺も合わせてよろしく願いいたします。以上です。

福岡幹事長

それでは川崎市さんお願いします。

事務局（藤井課長）

ご質問ありがとうございます。植物の調達の考え方につきましては川崎市内産を優先にすることは変わらず計画の通りでございます。設計チームの方で、かわさきフェア期間中にずっと咲いている品種なのかどうかを確認させていただきながら、例えば時期的に寂しいところがあればどういう使い方ができるのかも含めてやり取りをさせていただいている状況かと思えます。引き続き、お互い意見交換や情報交換をしながら決定させていただければと思っております。価格につきましても、植物調達協議会と再度しっかりお話する場を設けさせていただいて、その中で決めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

福岡幹事長

矢澤幹事ありがとうございます。

引き続きまして、その他の幹事の皆様からご意見等ございましたら、挙手の方お願いいたします。今井幹事お願いします。

今井幹事

川崎市造園建設業協同組合の今井です。よろしく願い致します。先ほど矢澤幹事からお話にあった庭園出展の件ですが、応募が現在 40 弱あって 12 月 15 日まで募集中とのことですが、おそらく当初の想定よりは多い数の応募が出るのではないかと思います。これからどれだけ増えるか分かりませんが、応募された方全員分の庭園を造るスペースは確保できる見込みはあるのでしょうか。

事務局（藤井課長）

ご質問ありがとうございます。スペースに関しては、想定数を超えた場合も当初より想定しておりましたので、そこは問題なく用意できます。

福岡幹事長

それでは続きまして他の幹事の皆様からもご意見ありましたら挙手の方お願いいたします。いかがでしょうか。はい、栗原幹事お願いします。

栗原副幹事長

栗原です。皆さん、おはようございます。

僕は協働を担当していますが、先ほどご説明があったように、100周年事業や SNS でいろいろと発信されていて、いよいよ動き出しているのだなというのが非常に伝わってきています。この間の NHK の趣味の園芸なども僕は外れてしまって見に行けなかったのですが、ボランティアさんのお話では、深町さんのお話が非常に良かったというようなことも聞いているので、だんだん盛り上がってきたなという感じがしています。

ただ、ボランティアさんの多くは緑化フェアに対する気持ちや取組を理解していない方が非常に多いです。広報にも繋がるとは思いますが、やはり緑に関心のあるボランティアさんをまず捕まえておかないと、関心のない人まで行き渡らないと思います。川崎市内のボランティアさんは川崎市の緑やお花に関しての思いがあるので、この間の趣味の園芸などもこれはどうなんですかとか、いろんな質問を受けます。川崎市の緑やお花に関してすごく興味があるという印象は受けているのですが、今ひとつ緑化フェアに参加する意思がなく、他人事みたいな感じが強いと思います。ボランティアさんに興味を持ってもらうためにはどうしたらいいのか、ボランティアさんの「口コミ」を大事にした方が良くと思っています。ボランティアさんは地域のキーマンだと思っているのですが、いろんな人を誘ってくれたり、親戚にぜひ川崎見に来てよというような形で、口コミで広めていくことがすごく大事ではないかと考えています。非常に地味なことかもしれないですけど、そういうことが大事なんじゃないかなと常日頃思っています。もう一年も経つのに上手くいかない理由は、やはり僕も含めですが、企画側、主催者側で何か緑化フェアは楽しいですよとか参加しましょうという思いが、なかなかいろんな人に伝わってないという印象を受けています。僕はいろんなイベントのブースで「たね団子」の体験教室をやっているのですが、テントの中に居てただ来てくださいと言っても誰も来ないのですね。やはりテントの外に出て行って、たね団子を一緒に楽しいからやりませんか？という風に呼びかけることによって、たね団子って何？というような形で聞いてくれるようになります。そうすることで実際やってみて楽しかったとか、じゃあまた来ますという感じに繋がっていく。秋から春につなげていくことがすごく大事で、まずはそういった人たちを主催者側の仲間引き込む、一緒にやっていきましょうとそういう人たちが街の中に出て行って親戚や仲間緑化フェア面白そうだよ、なんかいろんなことをやるらしいし、春秋と2回もやるんだよというに広めていく、こちら側からすごく楽しいことをやるんだよというのをもっともっとキーワードを出していくというのが必要ではないかと感じています。これからボランティアさんの募集の機会が出てくると思いますが、年が明けたらもう皆さん来年の予定を組み始めるので、なるべく早く、どんどん発信していこうと僕自身できることはやっていこうと思います。ボランティアさんに会ったら、チラシを見せて今回の緑化フェアすごく楽しいですよ、ぜひ一緒にやりましょうという呼びかけを、ちょっと地味ですけども、やっていく必要があると個人的に感じています。もう一段階ボルテージを上げていった方がいいのかなという印象を受けています。意

見というか私の感想になってしまったのですが、何かご意見があったらお聞かせいただきたいと思います。

事務局（矢口課長）

栗原様ありがとうございました。協働の関係でいくつかお話させていただきたいと思います。ボランティア募集の方で、植物の育成管理に関しましてはその他のフェアと異なる点がありまして、会場の会期期間にボランティアを募集するというのはどこの会場でもやっていることですが、今回の会場におきましてはその前段階から参加いただける方を募集しております。こちらの声掛けに関しましては、10月末から各区で公園愛護会等の皆さんが集まっている機会を通じて、募集をお伝えさせていただいておるのですが、そこにいらっしゃっている方は市民の一部の方でございますので、今後も緑地協会さんを通じて緑の活動団体の皆さんに広報していただけるということで大変ありがたいと思っております。こちらの募集は、期限を1月9日にしております。現在の募集状況は、今週の水曜日まで、150人を目指しているところ35名ぐらいはご応募いただいております。来週はかなりいろんな方に情報が行き渡ると思って期待しておるところです。もしそこでもちょっと人数が足りないようであればまた追加でお声を掛けることを積極的に考えて参りたいと思います。

また、非常に響いたご指摘としては楽しいよということがやはり伝わっていないのではないかとこの観点でございます。川崎緑化フェアは、会期の前にしても、会期中におきましても参加ができることを特色としています。そのような面で楽しいフェアであることを私たちがもっと伝えていかなければと思ったところでございますので、今後各種イベントでそういった点が伝わるように努めてまいりたいと思っております。

福岡幹事長

栗原副幹事長ありがとうございました。

続きましてご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは反町幹事お願い致します。

反町幹事

反町でございます。今栗原さんがおっしゃったこと、私も言いたかったこととすごく重なるところがあったので重複するところがあるのですが、やはり我々も含めて、これから巻き込んでいく人が、緑化フェアを成功させるという主体性を持ってもらう、自分たちで作るんだ、成功させるんだって気持ちにかかっていると思っているので、栗原さんのおっしゃる通りだと思います。ですから、そこを私もすごく強調したいです。もう今が勝負だと思っているので、もちろん私自身やる気がありますけれども、例えば私の今の1つの本業が川崎市のイベント関係の仕事ですが、発信力のある有力なイベント会社さんとか関連会社さんがいるので、その人たちをいかに巻き込んでいくか、自分たちで作るんだという思いを持ってもらうことがすごく大事だと思っています。

それから私のもう一つの立場で、川崎の商店街の代表として来させていただいているのですが、川崎の連合商店街組織がありまして、先月の連合商店街の会長さんたちが集まる会合で100周年と緑化フェアの話題が出ました。そこで会長さん方々は非常に年配の方が多いのですが、100周年と緑化フェアとはいったい何をやるんだという話になり、別の事務局長さんが資料に沿って説明をしていたのですが、会長さん方が全く理解できない。結局、何をやるのかわからないから、協力しようという気も起きないということを言い出す方がいらっしやいました。先ほどおっしゃったように実際はすごくいいこと、そして楽しいことを実施するものですから、できるだけシンプルに緑化フェアって何をやるのですかという問いかけに対してこうですよって分かりやすく、高齢の方とかであっても分かり易く説明できるような、ある程度統一的な表現が作れたらいいと思っていたところです。論点の協賛のところにも通ずるのですが、100周年や緑化フェアで何をやるかがちゃんと分かるだけで、参加するかは別としても、特に商店街関係の方は協賛という形で協力いただける一定の見込みがあると私は考えています。この間の商店街の会合の時は、説明があった上で分からないと言われてしまって、それ以上の説明する時間もなかったので、次回会議でもう一度チャレンジして、今度は私が説明させていただこうと思っていますが、こういう内容ですから協賛が必要ですよと言ったら商店街組織として協賛していただけたらと思っています。主体性をとにかくいろんな人に持ってもらおうということと、ご高齢の方でもわかりやすい統一的な説明ができたらいいいのかなど。そうすれば、きっと協賛・広報も含めて個人の方が発信できる時代なのでSNS等で盛り上げていけるかなというふうに考えております。以上です。

事務局（岸課長）

ありがとうございます。広報の考え方とセットでご回答させていただければと思います。一般的な広報は、資料に書かせていただいている集中的な広報といろいろな方をターゲットにしてターゲット毎に広報の仕方を変えていくことだと思うのですが、一方でおっしゃられている巻き込みについては、どちらかという広報というよりは協働などの取組の関わりが大事だと考えております。集中的に広報を行う期間以外の現在から秋までや、秋から春フェアまでの期間で、一般的な取組とセットで取組に関わっていただく中で知ってもらうということが一番良いと思っております。イベントやカウントダウンなどは、ボトムアップ的に直接対応させていただく中で、広報と協働をセットで行っていくようなイメージだと考えています。たね団子体験等の協働の取組も今後どんどん増やしていきたいと思えます。こういった協働の取組で関わっていただいた時に、緑化フェアでどんなことをするのかを併せてお伝えさせていただくのが一番わかりやすいと思っております。

それから、緑化フェア自体がいろいろな方に対して分かりづらいということは100周年事業も一緒だと思いますが、商店街につきましては、特に周辺エリアの商店街の方たちについては、商店街の課題に市からこういったことをやっていただきたいとか、あるいはこういったところ一緒に協力していただきたいということを、市からもアプローチをさせていただいているところがございます。また、会場に関係ない商店街についても、簡単な参加の仕組

み、例えば店舗に何か飾っていただくなどの取組を通じて、緑化フェアや 100 周年事業に参加しているところを発信とアピール出来るようにしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

福岡幹事長

ありがとうございます。先程主体性という話が反町幹事からありましたけれども、緑化フェアのコンセプトも川崎市政 100 周年にも関連して、「(市内) みどりの関心：高」層はある程度どういう風にして動かしていくのかが見えているかと思いますが、「(市内) みどりの関心：低」層やカラーズというところもそうですけれども、特に緑と何かを掛け合わせるとか、いろんな主体を組み合わせて動かしていくところが一番大事になってくる時に、一方的にプログラムを企画したり、協賛をお願いするというのではなくて、企業や商店街などの各主体に対して、こちらからこういう主体と、こういうふうに動いていきたいとか、こういう組み合わせを作りたい、ということ働きかける必要があると感じます。やはり最初に火を付けたりモデルを作るところは、こちらから介入してやらないといけないのではないかと思います。川崎の企業にとって、緑は今まであまりプライオリティが高いことではなかったけれども、緑や自然、花を協賛のメニューに組み合わせて入れる工夫や、あともう一つ大事なものは、その間をつなげる中間支援的な組織のコーディネーターも急には生まれてこないもので、そういう役割も担いつつこの「(市内) みどりの関心：低」層をどうやって盛り上げていくのが大事なのかなと思いました。

市制 100 周年と緑化フェアのイベントに紐づけて計画していただければよいですが、皆さんもう年間のスケジュールや既存のプログラムがあってということですので、そこにうまく掛け合わせたり、乗せていただく形で無理がない形でやっていただくのもあるのではないかと思います。無理して全部自前の 100 周年、緑化フェアのプロジェクトにせずとも、半分は既存のイベントに掛け合わせるとか、もう少しグラデーションをつけてやるとういのかないかなと思いました。

あと、先ほど花材の話が出ましたけれども、どれぐらいの市民を巻き込んで、どれぐらいの企業を巻き込んでどれぐらいの数のプログラムを打つとか、どれぐらいの主体を形成するかみたいなどころのおおよその目標やゴールがしっかりあるということは大事なのかなと思いました。多分それで広報の力を入れるところも変わってくると思いますので。今反町幹事の意見に触発されてご意見を申し上げました。

はい、それでは引き続き幹事の皆様からご意見いただきたいと思います。それでは渡辺幹事お願い致します。

渡辺幹事

皆さんおはようございます。そもそも何のためにフェアを開催するかという話は非常に大事だと思います。主催者側から言うと、国土交通省さんが提唱する巡回系の全国区で行うイベントですが、やはり川崎でやる意味というのがあるわけです。川崎でやる意味は整理さ

れていますが、要するに目線の問題だと思います。どうしても作り手目線になってしまう。どうしても作り手の言葉、作り手のワーディング、作り手の論理で協賛してくださいとなっているので、そうじゃなくてやはりやる意義をいかに明確にするかが重要です。それから、協賛金がどういう形で使われていくのか、その辺の話を明確にする必要があると思います。それから先ほどの商店街の話など、参画する時にどういう意義があって、どういうメリットがあるのかという課題も全部繋がっている話なので、その軸でもう一度整理した方がいいと思います。主催者の論理の整理はもう出来ています。

また、ちょっと違う観点で言うと、エコという意識のグリーンはありますが、ユニバーサルとかダイバーシティですよね。健常者は良いですが、ハンディキャップを持っている方に対してどのようなユニバーサルな設計をされているのか、車いすの調達だけではちょっと辛いのでプラスアルファ補わなければいけないものは何なのか、そういう軸でもう一度3会場にフィルターを入れてみる必要があると思います。緑化フェアは、ドメスティックな位置づけがすごく強いですが、少しインターナショナルに海外の居住者との接点もつくるとか、グローバルな視点で緑化フェアを川崎で開催する意味があるのか、一度そのベクトルで何ができるか、公式行事にもそういう方に参画をしてもらう方向もあると思います。そういうちょっと目線、ベクトルを主催者目線だけじゃなくて、参画のテーマ性とか意義性とかで一回全部整理してみるといろいろと解決策が見えるのではないかと思います。

それと会場3つ、2期に渡る開催というのは川崎の特徴だと思いますが、これを一言で言うとなんなのか、この会場は何なのかキャッチーに言うことが出来るとよいと思います。キーワードは例えば富士見公園だと「多様性×緑」、それから「体験×緑」、「歴史×緑」ですが一般の方にはちょっと分かりにくいと感じます。一言で言うところの富士見会場の部分は何なのか、いろんな要素が入っているけど、会場の特徴っていうのがキャッチーにぱっと飛び込んでくるような、来場者の目線でのワーディングや世界観の整理が必要だと思います。軸は崩すことはしないで、プラスアルファそういうコミュニケーション的な落とし込みを試してみるとよろしいのではないのでしょうか。そんなことを感じた次第です。

あと、協賛金の目標金額をお持ちなのか、その辺も分からないので教えていただければと思います。

事務局（岸課長）

何点か順番にお答えをさせていただければと思います。協賛につきましては、後ほど資料の方をご説明させていただこうと思っておりましたが、本日様々な委員の方から協賛の質問が出ていますので、先にご説明をさせていただければと思います。協賛につきましては川崎市100周年事業と都市緑化フェアと合わせた協賛という形で実施をさせていただこうと考えておまして、使い道につきましては、「参考資料1 市制100周年記念事業について」7ページにあります。基本的には100周年事業と緑化フェア、それから実行委員会が主催する事業について使います。緑化フェアだけに使うといった形の協賛は考えていないことが1点でございます。協賛の種類につきましては、資料8ページに3パターン用意しております。

して、資金調達それから物品等の協賛と合同協賛という形でございます。資金の目標額については今のところ金額としては1億円を目標に100周年の方と一緒に広報を始めているところでございます。緑化フェア単体で少しお話させていただくとどちらかというと物品の協賛ですとか広報の協賛みたいところに主軸を置いていきたいというふうに思っております。例えば物品等におきましては、会場のいろんな資材や建設するものもそうですが、こちら写真にもございます通り、ベンチですとか会場の中に協賛が大きく広がると良いと思っております。特に広報協賛については、事前の周知期間や合間の期間も含めて集中的に広報させていただく時に、公共交通で大きな展開ができればいいなと考えております。協賛のランクにつきましては、9ページのところで設定しております最大で500万以上がプラチナパートナー、物品と広報につきまして100万円以上でゴールドサプライヤー、あとメディアパートナーを設定しております。10ページが協賛していただいた方の特典のメニューです。それから11ページ以降に、名称使用权ですとか広報の作成物への企業名の掲載の方を、12ページ以降に事例として載せさせていただいております。協賛については、最終的には100周年の式典の中で市長受領・感謝状贈呈というような形で表彰をさせていただきたいと考えております。協賛の目標と金額的などところについては先ほどお話をさせていただいた通りでございます。

事務局（藤井課長）

今頂いた誰目線という話が非常に重要な話だと思いました。先ほどから複数の幹事からお話いただいておりますけれども、我々もいろんなイベントで、チラシを持って緑化フェアよろしくお願ひしますと配ったりしているのですが、正直我々もこのチラシで説明するのはなかなか難しいと感じております。本日、資料の中で会場のイメージですとかイベントのイメージを出させていただいておりますので、渡辺幹事がおっしゃったようなもっと来場者目線での整備をしていく必要があるのかなと感じました。そういうものをまた媒体にしてしっかりお伝えできると、先程反町幹事からあったように自分事として捉えやすくなってくるのかなと思いました。その辺を参考にさせていただきながら、進めていきたいというふうに考えております。

事務局（岸課長）

広報関係の分かりやすさや一言で伝えることについて、計画を作っていくとどうしても説明したくなり書きすぎてしまうところがありますが、全部書いていくと資料も多くなってしまい、見ていただいた方に理解してもらえないことがあるので、キャッチーな、一言でというところが非常に重要なキーワードだと思っております。いろんな場面で緑化フェアって何なのといった時に、一言で言えるようなものは今後作らせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

また、タイバーシティとかハンディキャップ等については特に資料の方には載せていませんが、まずは行催事が一番ポイントかと思っております。オープニングセレモニーや公式行事を多くやりますが、その中のアトラクションやフェアを象徴するオープニングの中

にダイバーシティやインクルーシブの考え方を見せる形で入れさせていただきたいと思っています。そこから始まって、実際会場の中にどうやって落とし込んでいるかが繋がっていくといいと思っています。秋と春の繋ぎについてもストーリー性が必要だと考えており、それぞれの時期でやっていく公式行事の繋がりや意義が見えるような形にしたいなと思っています。もう少し具体的に公式イベントの中に含めるコンテンツが決まりましたらまたご報告させていただければと思います。以上でございます。

事務局（岸課長）

ハンディキャップについては、案内サインもそうですし、基本的に車椅子、ベビーカーについては庁内の中でも統一的な考え方ありますが、フェアとして独自にやっていくというところも必要だと思っています。川崎市が進めている環境だとかそういった大事な視点をここでも見せるような発信も併せてできたらと思っていますので、おっしゃられたようなところの視点も会場の中には入っていますしこれから出してくる統一的なレギュレーションの中で載せていければと思います。以上でございます。

福岡幹事長

はい、ありがとうございます。引き続きまして幹事の皆様からご意見いただければと思います。いかがでしょうか。それでは深町幹事をお願いします。

深町幹事

深町です。よろしく願い致します。川崎緑化フェアは全市民参加型の川崎フェアだっと思います。9月にちょうど小学生に向けて花苗を作るという授業をさせていただきました。小学校二年生です。小学校二年生に来年川崎市がどんなことするんだっけとお話をします。来年なんだっけと言うと、確かのお誕生日だよ、100歳のお誕生日、じゃあ100歳のお誕生日どうしようか、みんなでお祝いしよう、そうだよね、じゃあ、みんなでお花を作ってお祝いしよう、じゃあ、どうやってお花を作ろうかっていうお話から始まります。そうすると秋には緑化フェアってお花の祭典がある、秋に咲くお花はどんな花、春に咲くお花はどんな花と話が広がります。今日頂いた資料は素晴らしいです。すごく綿密に作られて本当に感謝できないです。でも、この資料を子供たちが見てもやはり理解できません。でも来年お祝い事があって、私たちの街にお花の祭典があって、ここにいろんな人がくる。どんな人が来るどうやって呼んだらいいかしら自分たちのまちをどう美しいまちにしようかって言った時に全市民参加型、自分も親も兄弟も商店街もみんなに参加するんだってという意味はお話ししないといけないよね、伝えないといけないよね。言葉もそうだし、花を育てて人をつないで花がたくさんいっぱい咲くとそのまちの農業が豊かになる、自分たちの食べ物が豊かになる、そして町が豊かになるという簡単な言葉でいいんですが、緑化フェアっていうのは全員がわかる言葉で広報するということが大事だと思います。その小学校に行ったことと、もう一つ私は園芸業界に長くいるのでいろんな業界の園芸のメーカーさんですとか、種苗メ

一カーさんですとかそういったトップの方たちが集まる機会に参加することがありますが、緑化フェアがあるらしいというのは知っているけれどもどんなことやるのということがやはり伝わっていないのです。でも川崎市の緑化フェアは全市民参加型なんですと言うと面白そうだね、じゃあちょっと参加したいけど、どこに連絡をすればいいの、協賛いくらでもするよ、でも川崎市から何も言われていませんよ、どうすればいいのってみんなホームページを調べています。業界のメーカーサイドはみんな協力したい気持ちをちゃんと持っていますで、ここを協力してくださいというのをもう少しアピールしてもいいのかなというふうに思います。

そしてあともう一つ、全市民参加型ですので、できるだけ SNS を使っていただきたいです。でもハッシュタグがいっぱいありすぎて、しかも長いです。「#全国都市緑化川崎フェア」とか「#川崎緑化フェア」、「#緑化 in 川崎」とか言葉が乱立していて全然一つに集まらないので何かポイントとなるようなのをぴしっとつけて、このハッシュつけて発信してください、ぜひみんなで盛り上げたいので、声かけお願いしますというのをぜひアピールなさるといいと思います。あと何日という紙を持ってらっしゃる写真がありますけれども、個人でもできると思います。カウントダウンはみんな大好きなので、あと 300 何日ですよという同じプレートを例えば緑化フェアのホームページからダウンロードができて、そこに自分で数字を書き換えて写真に撮って自分が作っている花だとか花壇だとかお庭だとかの写真と一緒にあと何日川崎フェアですよというのでハッシュタグもつけて発信してもらおうと、じゃあ自分も同じことをやろうかなというふうに思うので、ぜひ何か統一感を持ってみんなが同じ方向を向いているよというのを分かりやすく発信できたらいいというふうに思いました。すいません意見でしたけれども、以上です。

事務局（岸課長）

ありがとうございます。最後に言われたカウントダウンのところから少しご回答させていただければと思います。おっしゃられる通り、カウントダウンボードを使って広報を行うことを正に考えておりました、今後やらせていただきたいと思っています。あとはこのカウントダウンについては、カウントダウン自体に意味があるということもあるのですが、ボトムアップ的にしたいなと思っていまして、こういったカウントダウンに参加していただくことも 1 つの関わり方だと思っています。こういったたくさんの方がカウントダウンという手法を通じて、緑化フェアまであと何日なのか、フェアで何をやろうかなと一緒に考えていただきたいと思っています。ですので、カウントダウン自体を発信する時には、ペーパークラフトノベルティと一緒にやらせていただいたり、ブースのところで出展させていただく時に写真を登録させていただいたりと少しボトムアップ的な手法を使っているところがございます。インターネットについても当然おっしゃられる通りいろんな方が見えていただくハッシュタグをつけて発信していただくことで、我々が発信するよりも多くの方に見ていただく機会があるというふうに思っていますので、こういったものを活用させていただきたいなと思います。主要駅につきましては、カウントダウンのボードを今後、川崎中央、

南部、中部、北部で一か所ずつぐらい置かせていただいて、横で写真を撮っていただくとか、目に付く機会を増やさせていただきたいなというふうに思っております。そういった取組自体が先ほどおっしゃられた市民総参加というところの関わり方にもつながってくると思っております。いわゆる参加の度合いとか関わり方の濃淡が今回のフェアで非常に大事なかなと思っております。市民が総参加していただくという形になると、関心がある層や地域の担い手になっていただくような方がボランティアとして参加していただき、気軽に参加できるというのも一つ大事な手法かなと思っております。また、年代によっても参加の仕方は違うと思っておりますので、今小中学校特殊支援学校の方には花苗のたね団子作りなどをやっていますが、それ以外の年代でも本当に関わり方がいろいろあると思っております。最終的なこのフェアの目標みたいなのところについては、身近に緑を感じていただいて、それを最後に自分の生活の中に緑が取り入れられるような形に少しでも寄与できたら良いと思っております。フェアの成果やレガシーという形で、フェアが終わった後に植木やお花を育てるような生活に変えてみようかなと思ってくれとか、そういったことだけでもいいのかなと思ったり、写真を撮るとかいわゆる花の写真を景色に合わせて撮るようになりましたとか少しの変化も関わりの中に入れていきたいと思っております。様々な度合いもありますし考え方も様々だと思っておりますので、それぞれの参加の形みたいなのところをシビックプライドと我々呼んでいますが、関わり方と関心に応じてちょっと変えていきたいなと思っております。

あと先ほどの一言で言うようなところと、通じると思うのですがけれども、やはりいろんな方に刺さる言葉というのは、それぞれ年代によって異なりますので、小さな子供に分かる言葉とご高齢の方に分かる言葉と、関心の高い層の方にしっかりご説明させていただく部分とは、やはりアプローチを分けていく必要があると思っておりますが、総じてやはり分かりづらいうふうに言われているところはもう少し説明の量を逆に抑えるような形で、キャッチーで五感に刺さるようなキーワードを考えさせていただいて、いろんな場面で発信させていただきたいと思っております。以上でございます。

福岡幹事長

はい、ありがとうございます。引き続き幹事の皆様のご意見いただきたいと思っております。米川幹事いかがでしょうか

米川幹事

米川ですよろしく申し上げます。スケジュールを見させていただいて交通輸送の関係で来年4月から交通輸送マニュアルの作成というところがありまして、以前からも交通輸送の部分は個別に事務局の方からいろいろご相談を受けておりまして今後とも特にこういう会議の席上じゃなくても結構ですので随時そういうことがあれば力になりたいなと思っておりますのでぜひ連絡いただければと思います。3会場ありまして富士見公園と、等々力の方は比較的平坦な地形ですし交通の便も比較的いいと言えますが、生田緑地は山坂がありま

して道路付近もちょっと狭いというところが私としては心配なところがありして、また具体的にマニュアルの作成の段階になりましたら、個別でも構いませんのでアドバイス等ができればと考えていますので、どうぞよろしく申し上げます。以上です。

事務局（藤井課長）

ありがとうございます。緑化フェアの来場者想定数といったものを出しております。実際には会場ごとに日毎で来場者想定数を置いています。あと等々力緑地でイベントがあった際に皆さんどの駅を利用されているかアンケートを行って実際にバスにどのくらい乗る方がいるのかをシミュレーションして数字を出している途中です。その結果を基にバス事業者や交通管理者と調整して、臨時にバスの増便数などを調整していきいと思っていますので、その際にまた少しご相談させていただければと思います。

また、併せて生田緑地につきましては、グリーンスローモビリティという環境に配慮をした形の乗り物を導入しています。グリーンスローモビリティは、実際にはそんな輸送力は高くはありませんが検討しています。先日実験的に人を載せて生田駅から生田緑地の中をちゃんと上まで行けるか試行したので、こういったものを高低差のところにも活用していきたいというふうに考えております。以上です。

福岡幹事長

はい。ありがとうございます。続きまして大西幹事いかがでしょうか。

大西幹事

本日はありがとうございました。川崎 FM の大西です。私は広報の部分のお話をさせていただきたいと思います。ここまで企画やイベントの内容が詰まってきたところで、やはり気になるところは広報の部分だと認識をしまして、内容が大枠詰まってきた中で、どう認知を広げていくのか、広報がちょっと遅れているのではないかというご心配の声も聞こえていることは事実かなと思います。細かいところに関しては企画のような話も含まれますので、幹事会だけではなく分科会的に詰めていく必要があると思っています。そのような中では、先ほどの広報協賛のところ特にメディアの方々の巻き込みは大きな力になりますし、勝負になるというふうに思います。例えば、他の緑化フェアでもトップスポンサーなのか若しくは主催側なのか、ちょっと事務局の構成ははっきりとは分かっておりませんが、地元の大きなテレビ局とか新聞社などの名前が連なったロゴを見るのが他の地域でもよくありますので、こういうことを川崎でも皆さん巻き込みながらご協力いただける場所を巻き込んでいく必要があると感じました。

例えば年配の方とか川崎の地域に密着している方というのはテレビ・新聞・タウン誌・ラジオも含めてですが、皆さん興味を持って聞いてくださっているのも媒体として使っていきたいと思います。一方、先ほどお話も出しましたが、やはり SNS を使っていくことはこのタイミングでしっかりとやらなきゃいけないという中で、SNS の活動報告資料をいただい

ておりましたがやはり難しいところもあるのかなというふうに思いながら拝見をしておりました。シティプロモーションのアカウントは非常にフォロワーも多いですし、一度の発信でインプレッションがかなり付くということも我々も実体験として持っております。緑化フェアのアカウントをここと分けた理由というのもあると思いますし、ただ分けることのデメリットというの大きいにあるはずなので、このアカウントを使って何がしたいのかということは結構重要なポイントになってくると思います。今だとツイッターは 700 人ぐらいのフォロワーで、インスタだと 660 人ぐらいのフォロワーだったと思います。フォロワー数を KPI として持つておくのか、もしくは企画的内容的に SNS を活かすという企画も広報観点もしくは PR の観点から作っていく必要があると思います。こういったものを仕掛けていくと必然的にフォロワーやインプレッションがつくアクションが SNS の中で生まれてくると思いますので、このあたりは SNS 起点でも企画をいくつか立て続けにやっていく必要があると思います。その中でグリーン×SNS でどのようなものが考えられるのかは深町幹事にも聞いてみたいと思いましたが、グリーンを愛していらっしゃる方はグリーンや花の手入れを日々されていたり、割と写真とかに収めてお持ちだったり、何かしらそれを見ていただきたいという発信意欲があるのではないかと思うんですよね。こういう意欲を刺激するような企画、簡単には写真コンテストなど、皆さん対抗やコンテストみたいなものは割と大好きだったりしますが、そういうものがこのグリーンに親和性が高いという仮定であるならば、そういった企画なども SNS を使う意味が出てきますので、ツイッターもしくはインスタを使う意味を付けられるような企画を作っていく必要があると思います。実際にグリーンに携わっていらっしゃる方のご意見を聞きながら企画するのがいいだろうと感じています。地域対抗とか商店街対抗なんかもあっていいなと思いますけれども、それをどんどん皆さんが写真やツイッターの文字+写真で投稿して、最終的な表彰などのアウトプットがあり、地域での「我が町一番」みたいなそういうものを作っていけると良いと思いました。

それから先ほども皆さんがお話をされていたように、この川崎で行われる緑化フェアをシンプルにどういう意味なのか、何をやるイベントなのかということを整理出来るとよいと思います。メディア側も何かイベントをやりますよとイベントを広報記事にしてくださいと言われたら、面白ければ載せますということになると思いますが、川崎のこの緑フェアもしくは市政 100 周年事業を自分たちのメディアを通して、全面的に応援していこうとした時に、やはり先ほどからおっしゃられているようなシンプルにこういうことをやりたい、こういう川崎を作っていきたい、だから協力をするんだという腹落ち感というのは非常に重要だと思います。これは広報協賛につながってくるとは思います。市民が全員分かる言葉というのは、確かにそうだなとお話を聞いていて思いました。例えば 100 歳のお誕生日は私も使えるなど思いながら聞いていましたが、みんなで 100 歳のお誕生日祝いしましょうというのは子供でもおじいちゃんおばあちゃんでも広い年代でイメージがしやすいと。確かにお誕生日祝いにはお花ってあるよねと。川崎の街中にグリーンとかお花がいっぱいにあ

ってこれは 100 歳の誕生日だからみんなでやっているんだと、そこにパレードがあったり展示があったりして、そこに自分が参画する、誕生日会ってなんか行きたかったり何かやりたかったりしますよねと、お話を聞いていてそんなこと思いまして、そういう切り口での伝え方というのもすごくシンプルでいいなと思いました。そういうキャッチーな分かりやすい平たいキーワードでよいと思います。

あと、カウントダウンのパネルはぜひうちにもほしいと思いました。毎日ラジオ局にはたくさんの方の市民の方がいらっしゃっています。年間で言うと 1500 人か 2000 人ぐらいです。その方々がスタジオにパネルナビがあると皆さんがご自身でツイッターやインスタで情報発信してくださっていますので、ぜひ活用いただければと思います。これは川崎 FM だけではなくて、各メディアの方がいろんな市民の方と接点を持っていらっしゃるので、そういうところもぜひ活用いただければと思います。以上です。よろしくお願いします。

事務局（岸課長）

ありがとうございます。まずメディアの巻き込み方につきましては、数社から広報協賛に具体的にご協力いただく話もありますので、引き続き広報活動と協賛金の依頼を進めたいと思います。今年の 9 月から来年の 4 月にかけてメディアの方にも市からお願いしたいと思っています。その際は、資金協賛や物品ではなく、メディアの得意分野を活かした広報をお願いしたいと考えています。

先ほどの広報が遅れているというご指摘を様々な方から受けましたが、100 周年事業とセットで実施していることと個々の取組期間を後ろに置いていることが関係していますが、フェア開催まであと一年となってくるとやはり今この時期にもっとアピールした方が良いと感じました。現時点で、目に付くような集中的な広報、例えば駅ラッピングなどは実施出来ませんが、ホームページや SNS を活用していきたいと思います。

本日幹事会の中で目標について話が出ましたが、フォロワー数よりも閲覧数の方が大事ではないかと考えております。現在 SNS やフォロワー数などの目標を設定する予定はございませんが、数が少ないという意見もありますので、多くの方に見ていただくような仕掛けを引き続き考えたいと思っています。SNS をシティプロモーションと分けた理由については、緑化フェアの特徴でもある緑を中心に緑化だけで発信していきたいという思いもあって分けていますが、おっしゃられている通り、やはりシティプロモーションの媒体の方が目に付く機会が多いので、様々な面でシティプロモーションの方にも載せていただけるような工夫や依頼を行い、これからも引き続き常にいろんなところに発信するような形を考えていきたいと思っています。

また写真コンテストもおっしゃる通りだと思いますので、例えば 100 日前イベントとしてコンテストをやりましょうとか、300 日前なのでこういったイベントをやりましたとか、企画の中で秋までまだ時間もありますのでいろんな面でカウントダウンを発信していきたいと思います。また、カウトアップをセットしていく機会でも、緑に関心がある方にフックがかかる企画を入れていきたいなと思います。あとは広報から外れてしまうのかもしれない

んが、関わりの深い方、いわゆる協働の担い手の方ですとか市内ボランティアをやっていた方には、こういったメディアよりは一緒にやらせていただく活動の中に広報を入れるというような形をとりたいと思っています。年齢層にもよると思いますが、先ほどおっしゃられたようにいろんな媒体ありますので、川崎市や市の広報や新聞など、またテレビは見ないけどラジオを聞きますといった方もいらっしゃると思うので、いろいろなツールで広報をさせていただきたいと思っています。協賛にも通じますが、例えば公共交通機関の目につくところにはこういった掲載の方法がいいじゃないかとか、考えていきたいと思っています。引き続き協賛の時にもお金でというよりはできるだけ知ってもらおうとか関わってもらおうところに力点を置いて、広報とセットでお願いをする形にしたいと思っています。すみません以上です。

福岡幹事長

はい。大西幹事ありがとうございます。それでは萩原幹事お願い致します。

萩原幹事

ありがとうございます。11月1日に川崎市内のホテルを集めまして、勉強会をさせていただきました。その時に推進室の方に出していただきましてご案内をいただいて具体的に川崎市内のホテルやレストランがどういうふうと一緒に盛り上げることができるかということをお教えいただきました。また、エントリー資格の具体的なところまではいっていませんので、これからそれができれば皆さんそれぞれのホテルでも今策を練っているところじゃないかなと思います。また11月29日には飲食店を集めた勉強会におきまして、やはり同じようにさせていただきました。それぞれ1日は35名ぐらい、29日は30名ぐらいでしたけれども、事前に食品衛生の実務講習会の時に毎回毎回会長挨拶として話を振りましたので、多分400~500名の方には話をしたような気がします。ですので、皆さん具体的にどうするんだろなということは今からなのかなと思います。この各エントランスのところに圧倒的な花壇をやるというのがすごくいいなというふうに思いまして、垂直花壇アートみたいな写真がもしバツと出たらすごいアピールになるのではないかと思います。今までは平面でこの会社はこんな風に作りますみたいな話だったのが、一気にこういう具体的なイメージが湧きますとうわっと思うと思うんですね。どんどんアピールして、それに例えばランタンのイベントですとか具体的に何月何日にここでこんなことやるよと言ったら、すごく話題になると思うので、是非そこに向けて一步一步大事な正念場かなというふうに思います。

ボランティアの募集については、二期合わせて4日以上参加で150名では全然足りないんじゃないかと思いました。この申し込みの仕方が一人ずつQRコード読み込んで申し込んでいくようなやり方ですので、例えばこの間、11月20何日かに中原のパンジーの張替えをさせていただきましたが、その時20幾つかの団体でそれぞれの団体が少なくとも5、6

名をボランティアで出していました。普通10何名ぐらいのメンバーがいます。そういう大きな活動をしている団体さんは結構中原にはいるので、団体は地域振興課が知っているのです、団体ごとに声をかけていくと、すごい人数が集まるのではないかと思いました。ボランティアの管理把握の仕方が、それでは難しいということかもしれませんが、これだけの広い会場を二期に渡ってやるには、もっと圧倒的な人数がいるので、それも検討した方がよいのではないかと、バラバラの個人で集めるというのがありますけど、そうやって纏まって機動力のある現場って結構街に花を植えていらっしゃるところが多いです、そこにぜひアプローチしていただければありがたいと思います。

また学校を巻き込むというのがものすごく大事だと思っています。たね団子をやっていただけで子供たちも楽しみにしていると思いますが、それが会場や近くの商店街に行くだけではなくて、できたら学校対抗みたいなアワードをやっていただけないかなと思いました。それぞれの会場の近くの、こちらでしたら等々力会場の近くの中原区内の小学校や中学校にエントリーしていただいて競うとか、学校対抗みたいにするとうみんな子供たちがすごい楽しみに自分たちの学校はこれだと思に行くかもしれないし、SNSとかいろいろところで盛り上がると思うので、次世代に続く緑のネットワークを続けていくためにはぜひ学校を巻き込んで、アワードなどをやっていただけると盛り上がると思います。あとカウントアップですか、そのボードにつきましてもいいのを作っていただいたら市内の各ホテルも喜んでそれを出すと思いますので、いいなというふうに思いました。

また企画ブースで、今40弱の応募ですけど、幅が2mとか4mぐらいの小さなものですので、これが三会場分かれるわけですから、1会場で12~13点程度であれば、面積的にはまだまだできるので、もっともっといろいろできるのではないかと思いますが、これがよく見ると全部自腹でやらなきゃならないエントリーなので、これは大変だなというふうに思いました。ボードから何から全部作って、運ぶのも大変ですし、出店する方は全部費用を自分で持ち出しなのが、ちょっとハードルがあるというふうにも思いました。やはり各会場すごく広い面積を緑や花で埋めていく中に、川崎市の予算を使えてやれる花の場所と、参加者のお金でやるものを混ぜて埋めていかなきゃならないでしょうけども、圧倒的なところは川崎市のお金が入らないととてもじゃないけどできないと思いますが、これから先3会場を埋めていく緑と花のお金のかかり方についても、調達のところにくらで買ってくださいかという話も出ましたけど、やはり花や緑を作っている方もボランティアではとてもできないので、これをやることによってどこかが犠牲になっては絶対にいけないと思いますので、みんなが幸せになるような大会にしなければいけないと思っています。その辺もちょっとご配慮いただけたらと思います。すごく今具体的なところまで出てきたので嬉しく思っていますので、引き続き皆さんと一緒にやりたいと思っています。どうもありがとうございます。

事務局（矢口課長）

ありがとうございました。まず協働の活動等について、今ブレ栽培ということで、一部の

学校で栽培をしていただきまして、この経験をもとに市内 170 校を対象に苗を作ってまちを飾っていただこうと進めているところでございます。この苗を 170 校作ったうち、一部を会場に持ってきます。その他は学校の中や通学路あるいは自分たちが遊んでいる公園等に置けるように、今それぞれアンケートを取りながら進めさせていただいているところになります。今幹事の方からのお話の中で、学校開放もあるのではないかとということ、非常にいい気づきをさせていただきました。学校や校庭の開放などを川崎市で進めておりますので、学校の中に飾っていただくことでたくさんの方に見ていただくことができます、花苗の活用としてこんな活用があります、生徒たちの活躍がみんなに見ていただけることとなりますということも、併せて学校さんの方に話が出来ればと思いました。

行催事については、これからどのような形で募集をかけていくか、いろいろレギュレーションを作成しているところでございます。確かに、出展していただく方に過剰な負担とならないようになるべく出展していただきやすいような形に充分工夫しなければいけないと思っておりますので、そのあたりを考えながらと進めさせていただきたいと思っております。

事務局（藤井課長）

少し説明が足りなかった部分を補足させていただければと思います。「資料 2-0」8 ページのコンテストエリア（I 土の広場、J 立体駐車場沿い）について、このコンテストエリアはどちらかというと造園系の企業さんですとか、資材メーカーさんとかが対象のコンテスト会場として募集している部分になります。先ほど今井幹事の方から数が多い場合の対応について質問がありましたが、下の芝生広場を視野に入れてコンテストエリアとして考えています。それ以外にメインガーデンは当然実行委員会の整備としてやっていきますし、等々力緑地の方であればこれとはまた別の形の公募型のガーデンですとか、実行委員会の負担で農業高校にガーデンの作成を依頼しています。いろんなメニューを用意しながら様々な方が参加できるように進めております。

福岡幹事長

ありがとうございます。時間が迫ってきていますが、これは川崎市さんから回答いただかなくて構わないのですが、次回に向けて私から気になったこと 2~3 お伝えしたいと思います。緑化フェアを一生懸命成功させることで、皆さん頭いっぱいだと思いますが、一番大事なのはその後に緑地フェアが何をもたらすのか、まちがどう変わるのか、どういうまちをつくるのか意識する必要があると思います。一生懸命緑化フェアの時作っても、スクラップビルドで作った後ゴミになることが多いので、やはり緑化フェアの後に何を残せるかという視点で、公園の方もこれから整備の更新やリノベーションできるところもありますので、できればその緑化フェアをきっかけに何を残せるのかというレガシーの意識が大事だと思います。ちょうど先週仙台に行きましたが、仙台市ではレガシー担当という部署があり、レガシー予算をつけていて、緑化フェア後の会場整備部分の公園への再生、より良い形に次につなげていくみたいなことを計画されていたので、そこを意識していただけたらと思いま

した。次回の会議の議題にレガシーが入っていますので、そのあたり期待したいと思います。加えて、物品協賛やガーデンのコンテンツがたくさんありますが、やはり作って終わりではなくて、作る前にこういうものがうちの学校にあったらいいなとかこのまちにこういうのがあったらいいなということを企業さんと調整して、フェアが終わった後にそこにプレゼントするとか、会場に持って行く前に一緒に作って緑化フェアで飾って、例えばそれが地域に戻っていくみたいなことも全部は難しいかもしれませんがもできるといいなと思っています。だいたい終わった後、解体して材料をリサイクルする話はよくありますが、そのあたりが大事ななと思いました。

あとは緑化フェアに行こうと思うと、必ず地図を見ます。地図はPDF等で絵地図みたいなものを渡される場合が多いと思いますが、大体行く前にどこに何があるかとか、あとはデジタル上の地図にこういうガーデンがあるんだよというのが分かると、出展者さんもやる気が出ると思いますし、広報の観点からもデジタル上でそういう地図とかイメージがわかるといいのかなと思いました。それも宣伝になるのかなというふうに思いましたので、そういうデジタル上の会場、デジタル上で人が交流するのは難しいと思いますが、少しそういうところはホームページの中でも検討いただけるといいと思いました。これはご回答いただかなくて構いません。ありがとうございます。

それではちょっと駆け足になりますけれども、続いて次第4の市政100周年記念事業について川崎市さんからご説明いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

4. 市制100周年記念事業について（参考資料1）

事務局（小池局長）

私の方から100周年記念事業についてのご説明をさせていただければと思います。100周年と緑化フェアの合同の実行委員会を作っておりますが、そちらの事務局長を務めさせていただいております、小池と申します。よろしくお願いいたします。

本日の資料ではなくて皆様の今の議論を聞きながら慌てて前の資料を探してご説明させていただければと思いますけれども、100周年のコンセプトとして我々最近呪文のように唱えています、100周年をきっかけに多くの方々に知ってもらって、関わってもらって、好きになってもらいたい、というようなコンセプトで進めております。そのために市民、企業、団体の皆様など多くの方々と一緒にこのロゴのところにもありますが、「Colors, Future! Actions」ということで、皆でアクションを起こしながらそのアクションを知ってもらう。あるいはアクションを起こすということで、川崎市に関わってもらう。いろんな関わり方の中で川崎市を好きになってもらいたいというような思いで進めているところでございます。全体的なイメージは、前回もお話させていただいたかと思いますが、先ほど反町幹事からもお話しがあったように何をやるのか分からないみたいのところがあって、川崎市が100歳100周年というのは分かりますが、じゃあ何やるのというのが分からないというのは、我々も本当に悩んでいるところでございます。そのような中で、来年一年間で、こんなことをやっていくんだよというものをやはり皆様にもこれからしっかり周知していきたいと思っております。後ほど簡単にご説明致しますが「Colors, Future! Summit」「みんなの川崎祭」そして取組の核ということになります、それから「春」というところを位置づけさせていただきまして、来年一年間盛り上げていきたいと考えてございます。核の取組だけではなくて、小さな丸それから黄色い四角がちりばめられてございますが、黄色の四角は市としてもいろんな局いろんな区がそれぞれのところで市としての主催事業を行っていきます。また実行委員会の主催事業という形でオレンジ色の丸ですね。そういったところもこれからいろんなものを企画していきたい。また本当に大事なところがピンク色のところで参画団体あるいはパートナー主催事業と書いてございます。今実行委員会に参加していただいている方が増えていまして、12月の段階で360を超えてございます。

そういった方々もみんなで作るよというような趣旨をご理解いただきながら参加していただいているところで、我々としても何か100周年に関わりたいというような思いをお持ちの方に参加していただいているところです。パートナーというのは参加していただかなかったとしても市民の皆様、あるいは自社のお店でも全然構わないですが、そういった方々もみんな100周年に何かアクションを起こしていこうというような、そんなイメージで進めているところでございます。

実行委員会が主催する事業、川崎市が主催する事業、参画する企業が主催する事業、それから主旨に賛同する市民企業団体が主催する事業というような4つの分類に分けながら、どんな形でもいいので皆さん一緒にやってみようというような形で進めています。その中で何をやればいいのか、皆さん関わりたいけど分かりにくいところは、15のアクションテーマというのを作りながら特にアクション01なんかはグリーンコミュニティというものを置かせていただいています。緑のところだったら何かできそうだよみたいな、そんなイメージを考えてもらうヒントみたいな形でこんなものを作らせていただいて、いろんなカテゴリーでいろんな分野で関わってくださいというようなことを考えて進めております。

先ほど、レガシーというようにもございました。この100周年を機に共創の中で掛け合わせが生まれていく土壌、それから目標でございまして川崎市のファンを増やしたいと考えています。緑化フェアのレガシーということで、まちのいたるところで日常的に憩い賑わい質の高い緑のオープンスペースや日常の暮らしの中に緑が溶け込むというようなところも、100周年緑化フェアと一体的に目指していきたいです。また川崎市の特徴的な取組がどんどん加速していくようなきっかけとなるような100周年にしていきたいと考えて組みを進めております。

このような考えで進めている中で、昨日100周年の幹事会を行いましたので最近の取組というところを簡単にご説明させていただければと思います。最初に先ほど取組の核である実行委員会の主催事業として今4つ、5つ挙がっていますが、これからもう少し増えていくところでございます。その中の一つのプレ事業としてチャレンジした取組が、この11月に行いましたので少しご紹介させていただきます。公共空間を活用した賑わい創出プロジェクトということで、市役所前の通りを歩行者天国にしまして1日お祭りをやってみようという取組をやりました。公共空間をどんどん、川崎市としても使っていきたいと考えていますが、市内のいろんなところでやっていますが、交通量の多い市役所通りで行うのはかなりチャレンジな取組で、ここができればどんどん波及していくのではないかという思いでやっております。交通規制をしながら、ロングテールみたいなのをやって皆さん道路上で飲食してみましようとか、芝生を置いてみんなで休憩したりするのはいいですねというような取組をやりながら、4万人ぐらいの方に参加していただきました。隣の稲毛公園、稲毛神社では、反町幹事にもご協力いただき、ステージを置いてジャズをやったりしました。道路でダブルダッチなど若者文化を盛り込んで行いました。また環境の取組は緑化フェアにも関連しますが、ゴミの分別など、来年に向けてチャレンジをしているところでございます。こちらは来年もやっていきたいと思っております。富士見公園につながる通路になりますので、ここに緑のコンテンツも入れ込みながら盛り上げていきたいというのが今年のチャレンジの一つです。

もう一つが「Colors, Future! Sumit」として、カンファレンスとフェスティバルを2つ組み合わせたものを市内3会場で行い、いろんなトークセッションを展開しました。市内の

いろいろなところでフェスティバルと連携して、皆様に市内を回遊していただく取組を行いました。カンファレンスも 19 セッションありまして、本庁では市長も含め、いろんなオープニングセッション、防災のセッション、グリーンな未来ということでグリーンボンドをこれから川崎市で発行していくのですが、そういったところも地球に優しいまちに投資しませんかという話も行いました。昭和音楽大学新百合ヶ丘の会場では新百合ヶ丘の特徴を踏まえた音楽の取組、また深町幹事にも登壇していただきましたまちの緑がつくる新しい価値というようなところでも、いろんな面白いお話していただいたところがございます。また、SUPERNOVA KAWASAKI (スペルノーヴァ カワサキ) というところが、西口にライブ会場ができましたが、そちらを会場にしまして、まちのサステナビリティやアートなどの取組を行いました。ルーファ広場ですとかいろんなフェスティバル会場イベントを行ったところがございます。

このような 2 つの大きな取組を行い、来年以降も広げながらどんどん市民に参加していただいて、川崎市って面白いねというところを実感していただくような取組をしたいと思っています。先ほど言いました実行委員会、参画団体あるはパートナー主催事業のところでございますが、こちらまだ始まったところでまだ少ないですが、皆様の取組を 100 周年実行委員会が公式ウェブサイトでPRさせていただいており、皆さんの取組をこんな面白いことやっているんだよと、市内の皆様知ってもらうことを進めております。今のところまだ 30 件ですが、日航ホテルさんの方では 100 周年のおせちを作ってくれました。そういうような取組も始まってございます。また、マッチングという形で QD レーザーさんの商品を使ってフロンターレとコラボして、自分の目でサッカーを見られるようになるなどのコラボもこれから生まれてくると考えております。先ほど 360 と言いましたけども、皆様の交流する場を作ったりしておりまして、そういったところから何か生まれてくることを期待しながら皆さんとのつながりを作っています。そういったところに向けて広報の取組もやっております、さまざまな媒体、年代などに応じた取組をやっています。緑化フェアさんとも一緒にやらせていただいているところがございます。年が明けてからは新たなビジュアルでわかりやすいインパクトのあるもので広報していきたいと思っております。アゼリアの階段やクラブチッタさんに協力いただいたりしながら、どんどん打ち出してまいります。こちら集中期間というところで、7 月、8 月や 10 月に各主要駅に集中に実施し、緑化フェアさんとも協力しながら夏からもやっていくと思っております、うまくやりながら駅周辺のジャックをやっていきたいと考えてございます。またどうしてもデジタル媒体では届かない方もいらっしゃいますので、ニュースレターなども使いながら、幅広く皆様に知ってもらい、ニュースレター中には緑化フェアの記事なども載せながら、一体的に広報の方を進めていきたいと考えているところがございます。

最後に簡単に協賛の状況でございます。まだ始まったばかりの状況でございますが、物品等協賛ではコカコーラさんの方から、イベントのために飲料をいただいたり、お金は出せないが広報媒体使っていいよという形で、みぞのくちのノクティビジョンや新百合ヶ丘さん

のサインージなどを広告の協賛としてカウントさせていただいており、そういったところで広報を打たせていただくということも進めているところでございます。100周年と緑化フェアをしっかりと連携しながら広報を打って皆様にも参加していただけるよう、しっかりと働きかけていきたいと考えてございます。私からの説明は以上でございます。

福岡幹事長

ありがとうございました。少し時間が超過してしまっていますが、ここまでですべて次第は終了いたしました。最後にここだけは是非言っておきたいとか、先ほどのご説明をお聞きして何か最後にご意見やコメントあればと思いますけどもいかがでしょうか。よろしいですか。はい、それでは本日皆様から頂きましたご意見踏まえて、事務局の方に開催に向けた準備を進めていただければと思います。それではここで事務局の方に進行を戻したいと思います。

5. 閉会

事務局（木村次長）

幹事長、ありがとうございました。また本日は委員の皆様方、いろいろ示唆に富んだアドバイス、あるいはご意見いただきましてありがとうございました。本日頂きましたご意見等を踏まえていよいよ具体的に作り込んでいくというようなフェーズに入っております。直接個別にご相談をさせていただくような場面も含めて、ご指導いただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、以上をもちまして第5回緑化フェア幹事会を終了致します。今後のスケジュールでも触れさせていただきましたが、来年3月上旬に次回の幹事会を開きたいと思っております。その先3月25日(月)には第4回実行委員会総会を予定してございます。この総会で承認を得て、来年度突入するということになってまいります。早いもので、来月には100周年イヤーとなりますので、我々もちょっと焦りながらもしっかりと準備を進めてまいりたいと存じます。引き続きアドバイスいただければと思います。本日は誠にありがとうございました。